

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 26 日現在

機関番号：14403

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370398

研究課題名(和文) 日中戦争時期重慶における民族主義文壇の成熟と在重慶知識人ネットワーク

研究課題名(英文) a Study on Maturity of the Literary Circles and a Network of Chongqing Intellectuals during the Japanese-Chinese War

研究代表者

中野 知洋 (NAKANO, Tomohiro)

大阪教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：70372638

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：5人のメンバーによって、日中戦争時期重慶で活動した作家を中心に、重慶文壇に関する諸問題を検討した。とくに中野知洋は、『自由中国』の編集担当者で後に台湾に移住した孫陵の戦争文学や、『文藝月刊』や重慶商務印書館「大時代文芸叢書」の主編を務めた国民党系民族主義文学の指導者、王平陵の軌跡と作品について研究を進めた。また齊藤大紀は、重慶に隣接する湖南省湘西出身の作家・沈從文「在別一個国度裏」の作品論を刊行した。

研究成果の概要(英文)：We studied on maturity of the literary circles and a network of Chongqing Intellectuals during the Japanese-Chinese War.

研究分野：中国文学

キーワード：重慶 日中戦争 民族主義文学 王平陵 孫陵 沈從文 梁実秋 老舍

## 1. 研究開始当初の背景

### 研究の学術的背景

1937年より1945年の日中戦争時期重慶においては、全国各地から集結した知識人を中心に、政治・経済・外交・文化等諸分野を横断する独自の人的ネットワークが形成されていた。重慶ネットワークの研究は、中国が戦争という試練を乗り越え近代化を果たす転換点の解明につながる。

近代重慶に関する先行研究には歴史学の笹川裕史・水羽信男・菊池一隆等の四川・重慶研究があり、さらにそれら先行研究の集大成とも言える総合的な研究として石島紀之・久保亨編『重慶国民政府史の研究』が上梓されている。中国からは、地元重慶を中心に『重慶国民政府』『抗戦時期重慶の経済』等を含む「重慶抗戦叢書」(重慶抗戦叢書編纂委員会)全15冊など、政治・軍事・経済・外交・社会・文化等各分野における研究の蓄積がある。

一方文学研究は、阪口直樹による国民党の文化政策研究や楠原俊代の西南聯合大学研究、杉本達夫の老舎研究等が先駆的研究であり、その後も映画や演劇という文化活動の研究が断続的に発表されている。文学研究という観点からは、重慶時代に刊行されたそれら新聞・雑誌・単行本などの出版物や出版物に掲載された文学作品や論文を統計的な処理を施して傾向を読み取るというだけでなく、その内容まで精査した上で、重慶在住の作家・文人個人の思想形成や、作家間の交流・影響関係を通して見た思想的展開を明らかにし、それらの総体として存在したはずの文化空間・重慶を立体的に読み解く必要がある。

従来文学史は、「中華全国文芸界抗敵協会」(文協)という文学・芸術の全国組織が武漢から重慶に移転して活動を再開させた際に、なお中枢にあったのは老舎、郭沫若、胡風等という北京・上海より移転した文学者であり、そこに葉楚傖、王平陵という南京の国民党系の作家も合流したと記述する。しかし実際には、重慶の新聞・雑誌において、重慶にそれ以前より活動基盤を置く独自の執筆陣が抗日の主張を盛んに宣伝するなど、明確な相互交流の痕跡が見られる昆明・桂林等内陸文化都市と一線を画するという言論状況が見られた〔中野知、若手研究(B) 課題番号:16720074〕。従来「文協」中心の歴史認識のみによるのでは、重慶を拠点としてきた文人・作家たちのネットワークが重慶論壇を支えていたという事実が、抜け落ちてしまうものと思われる。

そこで、本研究は、抗日・民族主義文壇の形成と成熟という点を中心に、日中時期重慶における重慶知識人ネットワークの解明に取り組んだ。

## 2. 研究の目的

中堅・若手の文学研究者計4名が共同で、抗日民族主義文壇の形成と成熟という点を

中心に、中国が近代化を果たす転換点である日中戦争時期重慶を支えた、文壇・論壇という知識人によるネットワークの解明に取り組んだ。『大公報』『中央日報』等の大新聞や文芸誌を使用し、1.もとから重慶に活動拠点を置く知識人による抗日論壇の形成と伝播、2.全国組織「文協」系知識人の重慶における活動の再検討と人的ネットワーク、3.メディア論という観点から「陪都」(臨時首都)・重慶の首都としての都市イメージの変遷を明らかにせんとした。

## 3. 研究の方法

共同研究と個人研究の二本立てでの研究を遂行した。所期の目的を達成するため、以下の研究計画を実施した。

1.海外(重慶・南京・上海)及び国内での資料調査。海外は重慶図書館、第二歴史档案馆等、国内は国立国会図書館関西館等、所蔵機関での資料調査を行った。

2.研究報告会・資料調査会の開催(1年目2回、2年目2回、3年目2回)。

3.報告書の作成

個別の研究課題は以下の通りである。

中野知洋(研究代表者、大阪教育大学准教授)

田涛『潮』や司馬文森『人的希望』など戦争文学の成熟と抗日文学理論の展開について研究した。さらに重慶から台湾に移住した作家・王平陵や孫陵、文学者・梁実秋による民族主義思想の台湾移転についても研究を行った。

齊藤大紀(研究分担者、富山大学教授)

1940年前後、路翎をはじめとするいわゆる胡風グループが重慶郊外の炭鉱区・北碚に集って文学活動を展開した、北碚における文学者のネットワークおよび彼らの文学活動を雑誌『七月』や『希望』を中心に解明せんとした。

高橋俊(研究分担者、高知大学准教授)

戦時期重慶のマスメディアによる重慶の自画像と、上海や北平等他都市のメディアに見える重慶像とを比較考察し、「他者としての重慶イメージ」が如何に形作られ、変遷したかを解明せんとした。

中野徹(研究分担者、近畿大学講師)

中華全国文芸界抗敵協会編『抗戦文芸』等により文協系知識人ネットワークの変遷を探った。また、国民党統治区の内陸都市で刊行された連環画・漫画資料を用いて抗戦文壇において連環図画や通俗読物といった通俗メディアの果たした役割について考察した。

## 4. 研究成果

平成25年度

平成25年8月17日より8月23日にかけて、科研メンバー全員による重慶への現地調査を実施した。その前半は白公館・桂園・新華日報社・渣滓堂等、民国期重慶の歴史建造物の他、重慶中国三峡博物館における民国時期

資料展示を見学し、また北碚地区に保存される梁実秋紀念館（梁実秋旧居、雅舎）・四世同堂紀念館（老舎旧居）・国立復旦大学重慶旧址等文学関係の遺構の現状を確認した。また後半は、重慶図書館において王平陵を始めとする国民党系作家の民国時期重慶における文学活動に関するマイクロ資料を中心に調査を行い、重慶市档案馆における民国時期公文書の調査を実施した。

研究成果発表のための例会を2度設けた。6月8日に京都エスペラント会館で、11月3日に高知大学で、いずれも基盤研究(C)「近代都市・青島における知識人の交流と文化空間の創成」との合同の研究報告会を行った。また12月14日に中国モダニズム研究会と合同で研究成果の発表を行った。

主な研究成果としては、齊藤大紀が重慶に隣接する湖南省出身の作家・沈從文「在別一個国度裏」に関する研究を公刊したほか、中野知洋は山東省出身の国民党系の作家で日中戦争中の一時期重慶に移住して『自由中国』という民族主義の雑誌を編集したこともある孫陵の活動について調査した。孫陵の文学作品の主なものは国共内戦を経て台湾移住後に発表された作品が大半を占めるが、その中には青島、あるいは重慶を巡る「記憶」という形で都市が描き込まれていることを、実例を挙げて説明した。高橋俊は穆時英について、中野徹は鉄道遊撃隊に関する研究成果を発表した。

#### 平成 26 年度

平成 26 年 11 月 3 日より 11 月 9 日まで、高橋俊と中野知洋が重慶への現地調査を行った。重慶市北碚地区の梁実秋紀念館（雅舎）四世同堂紀念館（老舎旧居）湖広会館を再訪したほか、重慶図書館、重慶市档案馆での民国時期重慶の公文書等を調査した。また中野知洋は、平成 27 年 3 月 13 日より 3 月 19 日まで上海図書館及び南京の中国第二歴史档案馆において、王平陵の著書の刊行状況を調査した。同館所蔵の档案資料により、王が国民図書出版社という中国国民党系の出版社からの助成を受けて『晚風夕陽裏』等という著書を刊行していたことが明らかになった。

研究成果を持ち寄ったメンバーによる例会を2度設けた。6月21日に近畿大学において青島科研と共催の形で、また12月6日から7日にかけて中国モダニズム研究会との共催により実施し、重慶及び青島研究の諸問題につき討議を重ねた。

主な研究成果として、重慶で活動した作家・王平陵の事跡について考察した中野知洋「王平陵「漩渦」について」（中国文芸研究会 2015 年 1 月例会での口頭発表）のほか、高橋が深圳を取り上げて都市における文学の発生という側面についての研究成果を発表した。また中野徹に抗日戦争という視点から「作られる自他像」という口頭発表がある。

またそれぞれの研究の蓄積が各メンバーの分担執筆で中国モダニズム研究会より刊行された『中国現代文化 14 講』という大学用テキストにも活かされている。

#### 平成 27 年度

平成 27 年度は、基盤研究 C「文化都市・青島における知識人ネットワークと都市表象の研究」と共催で、研究例会を2回開催した。また、齊藤大紀が「湘西と北京 1990 年代以降の沈從文研究から」というタイトルで日本現代中国学会全国学術大会で口頭発表するなど、共同研究者による論文4件、口頭発表8件という成果を得ることができた。また、9月に「沈從文と湘西」（湘西は湖南省西部、重慶に隣接し一部重慶文化圏と重なる文化圏を形成する）という研究テーマにより、共同研究者全員による現地調査を実施した。その主な概略は、以下の通りである。

9月2日 湖南省湘西土家族苗族自治州・鳳凰県を訪問、沈從文故居、沈從文墓地を視察

9月3日 苗族の集落・茶洞（沈從文の小説『辺城』の舞台で、地図等には「辺城」という地名が記載されている）を視察。

9月5日 苗族の集落、麻陽・呂家坪（沈從文の小説『長河』の舞台）を視察。

湘西は、1980年代に城谷武男による現地調査報告がなされて以来、何人かの研究者によりフィールド調査が行われてきたが、観光開発が著しい鳳凰県、辺城と地名変更がなされ公園化した茶洞に対して、『長河』の舞台である麻陽・呂家坪については、観光地という趣はないものの道路が建設され、また吊脚楼と呼ばれる苗族の伝統的な木造建築も、耐用年数の限界が迫って鉄筋の建物に置き換えられつつあることが判明した。上記は重慶を取り巻く長江流域の文化圏の現状として重要なものである。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計9件）

1. 中野知洋「王平陵「漩渦」について」、『学大図文』第58号、大阪教育大学国語教育講座・日本・アジア言語文化講座、左1~20頁、査読無し、2015

2. 齊藤大紀「青島の海水浴場のロシア人王統照『海水浴の後』について」科学研究費（基盤研究(C)）研究課題番号24520387『近代都市・青島における知識人の交流と文化空間化の創成』報告書、pp74-89、査読無し、2015

3. 齊藤大紀「青島再訪記」科学研究費（基盤研究(C)）研究課題番号24520387『近代都市・青島における知識人の交流と文化空間化の創成』報告書、pp101-111、査読無し、2015

4. 齊藤大紀「恋に消えゆく五四の声 王統照『一葉』論』『野草』第97号、中国文芸研

- 研究会、pp.85-107、査読あり、2016
- 5.高橋俊「都市建設の光と影」『高知大國文』(高知大学国語国文学会、第45号、査読無、28-38頁、2014)
  - 6.中野徹「61人の階級同胞のために」『連環画研究』第4号、85-106頁、査読無、2014
  - 7.齊藤大紀「もつれあうエキゾティシズム 沈從文『在別一個国度裏』を読む」、『野草』(中国文芸研究会)第92号、査読有、13-33頁、2013
  - 8.高橋俊「上海の広東人 - 穆時英の小説から」『高知大國文』(高知大学国語国文学会、第44号、査読無、54-65頁、2013)
  - 9.中野知洋「『沈從文全集』未収録作品三編」『学大國文』(大阪教育大学国語教育学講座・日本・アジア言語文化講座)第56号、査読無、19-38頁、2013

〔学会発表〕(計12件)

- 1.高橋俊「『都市文学』再考—深圳文学の事例から」2015年11月28日 第64回高知大学国語国文学会、於高知大学
- 2.高橋俊「『花季雨季』論—深圳の一発屋」2015年12月19日 モダニズム研究会例会、於静岡 もくせい会館
- 3.齊藤大紀「王統照『一葉』について 少年は海で何を思うか」科学研究費基盤(C)「文化都市・青島における知識人ネットワークと都市表象の研究」研究例会 於近畿大学、2015年6月
- 4.齊藤大紀「王統照と青島 五・四の海から九・一八の海へ」中国文芸研究会例会、於関西学院大学、2015年7月
- 5.齊藤大紀「湘西と北京 1990年代以降の沈從文研究から」日本現代中国学会全国学術大会、於同志社大学、2015年10月
- 6.齊藤大紀「空閑少佐から空閑少佐へ 同時代の“空閑昇”言説における穆時英『空閑少佐』」中華圏モダニズム研究会北陸分会、於福井大学、2016年2月
- 7.齊藤大紀「鳳凰島の世界」富山市日中友好協会総会、於ホテルグランテラス富山大学、2016年3月
- 8.中野徹「海と学潮2——王林と海鷗劇社」2015年度青島科研第一回研究例会、近畿大学、2015年6月27日
- 9.中野知洋「王平陵「漩渦」について」中国文芸研究会2015年1月例会、2015年1月25日、於関西学院大学
- 10.高橋俊「上海の広東人」日本現代中国学会関西部会大会、2013年6月8日、於龍谷大学ともいき荘
- 11.中野徹「鉄道遊撃隊と呼ばれて “史実”と“物語”の相克」2013年度中国モダニズム研究会第2回研究例会、2013年12月14日、於関西学院大学
- 12.中野知洋「孫陵と青島」2013年度中国モダニズム研究会第2回研究例会、2013年12月14日、於関西学院大学

〔図書〕(計1件)

中国モダニズム研究会編『中国現代文化 14講』(中野知洋が第5章、齊藤大紀が第4章、高橋俊が第11章、中野徹が第14章を執筆) 関西学院大学出版会、全228頁、2014

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

中野 知洋 (NAKANO, Tomohiro)  
大阪教育大学、教育学部、准教授  
研究者番号：70372638

(2)研究分担者

齊藤 大紀 (SAITO, Hiroki)  
富山大学、人文学部、教授  
研究者番号：70361938

高橋 俊 (TAKAHASHI, Shun)

高知大学、人文社会・教育科学系、教授  
研究者番号：10380297

中野 徹 (NAKANO, Toru)

近畿大学、文芸学部、講師  
研究者番号：20610512

(3)連携研究者

( )

研究者番号：